

2006（平成18）年度 前期 京都大学 入試問題 文理共通 第2問 解答例

- *解答行数は、問一～問五で順に、四行、四行、三行、四行、八行である。とりわけ問五に関しては、京大がいかにか精緻な解答を想定し、また、要求しているかが理解できる。ただ近年ではそのような行数は出題されないので、解答行数を減らした解答例とした。
- *そもそも解答行数以上にたくさん解答要素の候補を集めたり、表や図式を描いたり、ましてや実際に字数の多い解答例や複数の解答例を書いてみてから、「さてどこをカットすべきか？」などという悠長なことを試験中に考えたり作業したりする時間はまったくくない。それらはすべて、単に非現実である。試験本番でできないことを普段やっていたら、本番ができなくなるのも不思議ではない。「まず必須要素をすばやく意識→使用行数の概算→残った解答行数に収まる範囲で部分点要素を重要な順に本文からすばやく特定→表現に注意して解答記述、以上5分以内」といった訓練を普段から行っておくべきである。

問一（四行→三行）

古本屋の前に詰めかけた中学生の群れを見て、「私」は教科書を扱う古本屋の存在を知り、母親の負担を軽くするため安い古本を買おうと考え、実際にその勇気を得たということ。

問二（四行）

「私」は自分の教科書だけ古本なのが屈辱で、古本を買ったことを後悔し、自分の貧乏人根性が忌々しく、虚栄心から兄の使い古しだという狡猾な嘘を考えたが、墨で消した前の持主の名前によってその嘘が露見する不安があったから。

- *設問要求は「犯罪の痕跡」のように思えた理由である。「虚栄心から嘘をついた」「ばれることを恐れている」などだけでは、「犯罪の痕跡」と思われる理由が説明されていない。指示対象「その（黒い跡はまるで犯罪の痕跡のやうに）」を解答化する習慣さえあれば、そこは押さえられる。すなわち、「前の持主の名前→墨で塗り消す（犯罪＝ウソの証拠隠し）→痕跡の意味に気づかれれば、ウソがばれる」という説明である。ちなみに解答にわざわざ比喻や具体例（もしくはそのようにとられる表現）を用いないこと。

問三（三行→二行）

わずかな金を惜しむためではなく、母親の負担を軽くするための、いじらしい心根による親孝行という善行の喜び。

- *「吝嗇（の喜びでない）」の正しい置換がポイント。「節約」などの美德ではない。「物惜しみ・けち」の意の記述が必要であり、文脈から推して書くにしてもせめて「しみつたれた貧乏人根性（によるものではなく）」くらいは書きたい。

問四（四行）

古本の前の持ち主は、教科書にすきまなく書きこみをするほどの学習意欲はあるが、一方では簡単な漢字も読めず、教科書に下らない書き入れをすべきでないことも分かっていない、愚かな生徒であったという意味。

- * 「熱心」＝「書き入れがびつしりとしてある」の置換。注意すべきは、「びつしり」という擬態語をそのまま用いないこと、「書き入れ＝読み仮名」と決めつけないこと。また、「熱心・劣等生」の置換（意欲がある・愚かな生徒など）自体も忘れないこと。

問五（八行→四行）

教師は「私」が貧しくて古本を使っていたのだと思って困惑し、咎めたことを後悔している様子であるが、「私」は、善行の勇氣と喜びを貫き通せず、教師に真実も語れない自分の弱さと卑怯さが、咎められた以上に大変つらかったということ。

- * 「叱責よりも強く私を悲しませた」を説明せよとある。「悲しい」という心情は、「屈辱・後悔・いまいましさ」などとは異なる。貧乏だと思われることは、主人公にとって恥ずかしく屈辱ではあろうが、そんな程度のことが「叱られるより悲しい」はずはない。この最終問題で最も重要なことは、本文中の「この弱さ、この種の怯懦は、思へば、私のいままでの生涯に常に色々な場合と色々な現はれに於て、つきまとうてみた」という、「私」の自己認識に基づく「悲しみ」をきちんと理解して、解答化できたかどうかである。この「弱さ・怯懦」を語り手が述べた箇所の直後に、一行空けて最終エピソードとして語られているのが、傍線部の内容なのである。

- * 教師は、（誤解1）「私」が書き入れをしている」→（誤解2）「貧乏なゆえに古本を買った（ので、本人の書き入れではない）」という、2段階の誤解をしている。だから、「誤解1→叱責」、「誤解2→叱責を悔いてゐる」という反応をしたのである。「私」は、誤解1を解いたにもかかわらず（これ、僕ぢやないんです）、誤解2を解こうとはしない。なぜか。そうするとウソがばれるので、虚栄心が邪魔をして本当のことを言えないからである。つまり、これが「私」の生涯につきまとう弱さであり怯懦であるということになる。京大にかぎらず、こういう本文中でとりわけ重要な内容を述べた箇所が読み取れたか＝解答化できるかについては、しばしば最も重要な最終設問で問われる。